

メタクト配合錠を服用される患者さんへ

このお薬には、
ピオグリタゾンと**メトホルミン**の
2種類の有効成分が含まれています。

メタクトの種類	メタクト配合錠LD	メタクト配合錠HD
有効成分		
	白色	帯黄白色
ピオグリタゾン	15mg	30mg
メトホルミン塩酸塩	500mg	500mg

血糖値を下げる糖尿病のお薬が、処方されています。
以下の点にご注意ください。
また、この注意は、必ず家族やまわりの方にも知らせてください。

低血糖症状を起こすことがあります

- このお薬を服用した場合に、低血糖症状があらわれることがあります。
- とくに、インスリン製剤やインスリンの分泌を促すお薬(スルホニルウレア剤)との併用で低血糖症状のリスクが高まるおそれがあります。
- 低血糖症状があらわれた場合は、**がまんせずに早めに糖分(砂糖、ブドウ糖など)をとってください。**
ただし、^{アルファ}α-グルコシダーゼ阻害剤(ボグリボースやアカルボース、ミグリトール)などの糖分の吸収を遅らせる薬剤を併用している場合には、**必ずブドウ糖をのんでください。**
- 高所作業や自動車の運転など危険を伴う機械を操作している時に、低血糖症状を起こすと事故につながります。特に注意してください。

低血糖症状について

低血糖症状は、空腹時に起こり、意識がある場合、食べ物をとると治ることがあります。

● 低血糖症状とは

血液中の糖分が少なくなりすぎた状態で、急に強い異常な空腹感、動悸、力のぬけた感じ、冷汗、手足のふるえ、眼のちらつきなどが起こります。
また頭が痛かったり、ぼんやりしたり、ふらついたり、いつもと人柄の違うような異常な行動をとることもあります。
ひどい場合には、けいれんを起こしたり意識を失うこともあります。

● 低血糖症状が起こったら

- ・低血糖症状がもし起こったら危険な状態ですから、軽いうちに治さなければなりません。軽いうちは**糖分(砂糖、ブドウ糖など)**をとると治るので、日頃から常に糖分を持ち歩き、その場ですぐ糖分をとれるようにしておくことが必要です。
- ・低血糖症状を起こした場合は、必ず早めに医師に報告してください。

● 低血糖症状を起こさないために

- ・お薬の量やのみ方は医師の指導を守りましょう。
- ・食事療法、運動療法はきちんと行いましょう。
- ・食事時刻の遅れ、食事量または炭水化物の摂取が少ない食事、激しい運動、空腹時の運動は避けるようにしましょう。

そのほかに次のような症状があらわれることがあります。

- 食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、全身倦怠感
- 脱力感、筋肉痛、褐色の尿
- みぞおちの痛み、吐き気、黒色の便
- 発熱、咳、息苦しい
- 悪心・嘔吐、腹痛、下痢などの胃腸症状

低血糖症状や倦怠感、吐き気、食欲不振、むくみなど、このお薬をのんで不快な症状が気になる場合は医師に相談してください。

(両面ともご覧ください。)

このお薬の服用により、乳酸アシドーシスを起こすことがあります。

● 乳酸アシドーシスとは

メトホルミンで治療されている糖尿病を含む種々の原因によって血中の乳酸が増加する結果、血液が酸性になった状態です。特に、肝臓や腎臓、心臓に病気のある人、高齢者で起きやすいとされています。

気持ちが悪い、吐いた、お腹が痛い、下痢をした、全身がだるい、筋肉痛になった、息苦しいなどの症状が著しいとき、あるいは持続するときにはメタクト配合錠の服用を中止し、すぐに医師にご連絡ください。

● 乳酸アシドーシスを起こさないために

- 肝臓や腎臓、心臓、肺に病気のある人、透析を受けている人、乳酸アシドーシスを起こしたことがある人は医師に申し出てください。
- お酒を飲み過ぎないようにしてください。
- 脱水のおそれがあるような下痢、嘔吐などの胃腸障害のあるとき、利尿作用を有する薬剤により脱水症状があらわれたときは、メタクト配合錠を服用しないでください。
- ヨード造影剤を用いた検査を受けた場合、腎臓の働きが一時的に低下することがあります。
ヨード造影剤を用いた検査を受けることが決まりましたら、メタクト配合錠を服用していることを必ず医師にお伝えいただき、医師の指示に従って服用を一時的に中止してください。
造影剤検査を受けた後は、48時間はメタクト配合錠を服用しないでください。
医師の指示に従って、メタクト配合錠の服用は再開してください。

このお薬の服用により、むくみ（浮腫）や体重の増加がみられ、心臓の働きに影響し、息切れ、動悸などの症状がみられることがあります。とくに心臓の病気のある患者さんにはご注意ください。

次のような症状があらわれることがあります。

● むくみ（浮腫）

むくみ（浮腫）のために、下腿や足が腫れたり、顔面やまぶたが腫れぼったくなるなどの症状がみられることがあります。

● 体重増加

体重の増加がみられることがあります。体重はできるだけ毎日測定し、急激な体重の増加に注意してください。

● 息切れ、動悸

労作時に息が切れたり、動悸がする（心臓がドキドキする）などの症状がみられることがあります。症状が進行すると、安静にしているもこのような症状があらわれることがあります。

むくみ、急激な体重増加、息切れ、動悸などの症状がおこったときの処置

むくみ、急激な体重増加、息切れ、動悸などの症状に気づいた場合には、本薬の服用を中止してください。そして、医師に連絡をとるなどして、相談してください。

とくにご注意くださいいただきたい患者さん

- 心臓の病気（心筋梗塞、狭心症、心筋症、高血圧性心疾患など）を合併している患者さん
- インスリンを併用している患者さん

このお薬を使用された患者さんで膀胱がんの発生リスクが増加する可能性が完全には否定できませんので、下記の点に注意してください。

- 膀胱がん治療中の方はこのお薬を服用しないこととされています。膀胱がんと診断されたことがある場合は、医師に伝えてください。
- また、膀胱がんの早期発見のため、血尿や頻尿、排尿痛などの症状がみられた場合には、医師に相談してください。
- くれぐれもご自身の判断でお薬をやめないで、心配な方は医師に相談してください。

● 血尿

尿が赤くなる場合があります（痛みを伴わない場合が多い）。

● 頻尿

排尿の回数が多くなる場合があります。

● 排尿痛

急な尿意や排尿時に痛みの症状がみられる場合があります。

このお薬をのんで不快な症状があらわれた場合は医師に相談してください。

（両面ともご覧ください。）

医療機関名